千葉氏ゆかりの地

城ノ台遺跡

Remains of Jyōnodai

千葉氏ポータルサイト　Foreign Languages

千葉氏攻めのために里見氏が築いた城跡か

城ノ台遺跡は、大百池の東の台地上にあります。発掘調査で、旧石器時代の石器や、縄文時代から平安時代にかけての住居跡が見つかっており、特に古墳時代には大きな集落が営まれていたことがわかっています。

鎌倉時代以降のものとしては、台地の北東側に土塁（土で築かれた城壁）や虎口（城の出入口）、南東側の縁にも土塁が、その下には腰曲輪（斜面を削って造り出した平らな場所）が見られます。発掘調査では城郭にともなう柵列や空堀、腰曲輪も見つかっています。しかし、陶磁器などの出土遺物は確認されていません。このため、砦のような一時的な施設ではないかと考えられています。

千葉胤富書状（井田文書）　画像提供 茨城県立歴史館

千葉胤富が、配下である上総国大台城（千葉県芝山町）主の井田平三郎（胤徳）に、小弓を占領する里見方が行動を起したら、自分も出撃するので合流するよう求める書状です。

周辺図（国土地理院空中写真を加工）

戦国時代、安房国（現在の千葉県南部）を本拠とした里見氏は北へ勢力を拡げ、千葉氏の領地へも進出します。ここから北西約1.5㎞には、千葉氏の重臣原氏の本拠小弓（生実）城があり、元亀元年(1570)に里見軍に攻め落とされました。大百池の西の台地上には、小弓城の出城とされる南小弓城がありました。小弓城の近くに里見氏が砦を造り始めたとする史料もあり、この場所は、里見氏が小弓城攻めのために築いた陣城（戦いのための臨時の城）だったとも考えられています。

千葉市教育委員会